

第5回 ふくしま新ステージ有識者懇談会議事録

- 1 日 時 令和2年1月15日(水) 午前10時～午前11時17分
- 2 会 場 福島市役所 4階 市長応接室
- 3 出席者 伊藤宏会長、菅野廣男委員、齋藤美佐委員、高橋満彦委員、
高谷理恵子委員、西内みなみ委員、三宅祐子副会長、安田信二委員
- 4 欠席者 岡野誠委員、菅野孝志委員、木下真理子委員、高橋理里子委員、渡邊博美委員

5 内 容

○第5回懇談会(司会:政策調整課長)

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 議事(議長:伊藤会長)

議 長 事務局より「(1) 第4回懇談会の振り返り」から「(4) 将来構想及び基本方針に関する意見書(案)」まで、関連しているので一括して説明をお願いします。

事 務 局 資料により説明。(ふくしま新ステージ有識者懇談会【第5回】(パワーポイント、意見書(案)))

議 長 只今、事務局より、第4回懇談会の振り返りや「将来構想」と「基本方針」に関する意見書の案を説明していただいた。

本日の議題は、資料1の「「将来構想」及び「基本方針」に関する意見書」の最終案を確認すること。資料1には、今までの皆様のご意見の主要なところ、共通するところが網羅されている。さらに強調したい部分や修正したい部分などご意見を伺いたい。まず、「総合計画全般に関する事項」について、文言の修正も含めていかがか。

委 員 (2)の「迷った時に立ち返れる」という表現はこれでよいのか。もう少し分かりやすい表現がよい。

委 員 (1)の「お年寄り」という表現はあまり使わないと思う。「高齢者」などの表

現がよいと思う。

議長 次に、「将来構想に関する事項」についてはどうか。

委員 (2)の「持続可能性」という言葉が一般市民にどこまで親しまれている言葉なのか不安がある。福島市は「持続可能性」をどのように捉えていくのかといった視点が一般の人にアピールしていく際には大事になってくるのかもしれない。

議長 自然や環境の持続可能性はもちろんあるが、市の持続可能性と考えると、人口が減少する中で、今までの仕組みや行政サービスを持続していくという意味もある。どのような表現にすれば考えていることが伝わりやすいかということだと思う。

委員 (4)に「新たなスタートをきる年となります」とあるが、この表現では完全に復興が終わったように感じられる。

議長 国の復興・創生期間は終了するが、市として次の段階の復興や創生を考えていかなければいけないという意味だと思う。

委員 「新たなスタート」という言葉が、「終わって新しく生きよう」と捉えられるため、補足が必要だと思う。福島市としても被災地に寄り添っていくような気持で表現の工夫が必要かと思う。

議長 復興が終わったということではないということが分かる表現に変える。

委員 意見書が市民向けにオープンになることを考えると、読みやすい表現にしておいた方がよいと思う。(2)の「未来への投資に繋がる」の「未来」が福島市の税制の未来のことしか謳っていないようで残念だ。持続可能性については、ダイバーシティや復興の大前提になってくると思うので、そのすべてに持続可能性は謳いたい。

議長 持続可能性という言葉を使うならば、行政の持続可能性という限定的な意味で使うのか、社会あるいは人々の暮らし全体を含めての持続可能性という意味で使うのかによって、少し書き方が違ってくる。ある意味、持続可能性というのは、すべてをリードするような一つの理念、考え方になり得ると思う。(2)は、行政の持続可能性にある程度限定した形で、持続可能性という言葉ではなく、行政が持続的に市民生活を支えていかなければいけないというようなわかりやすい表現

にするという手法はある。そうすると、ダイバーシティとの関係も切り分けて考えられる。

委員 (2)は、このままだと後々危機的な状況になるので、そうならないように頑張りましょうという流れに感じる。現実的な視点は大事だが、危機感をあおってみんなを方向付けるような表現には抵抗がある。この表現のしかたの方向性を少し考えていただけるといい。

委員 (2)は、「将来構想や基本方針の実現に向けて留意すべき事項」の(3)にある「財政見通しを把握、分析する」という表現と裏腹の関係なので、ここに入れてもいいと思う。その代わり、持続可能性は暮らしなどの文章にしたほうがいいと思う。

議長 次に、「基本方針に関する事項」についてのご意見をいただきたいと思う。
(2)の「自助・共助・公助のバランスがとれたまちづくり」だが、人の命を守るとするのは最低限の行政サービスであり、これからの自治体の仕事として防災・減災というのは非常に重要なものであると思う。しかし、防災・減災の取り組みは、すべて役所に任せていればいいわけではなく、地域や個人もきちんと災害や防災を意識しなければいけないという意味でわかりやすく表現できないか。

委員 単純に災害に強いまちづくりを目指すのだということを謳って、それを支えていくために自助・共助・公助があるという表現でもよいのでは。

委員 (1)の「子育て世代を引き付ける」という表現が引っ掛かった。ほかの表現はないか。

委員 「子どもや若者、子育て世代が楽しさや魅力、わくわく感などを感じられる」でもいいのではと思う。

委員 協力してまちをつくっていくという視点がすごく大事だと思っている。人同士がつながっていくという視点は、住み心地がいいまちをつくっていく際にとっても大事な視点になると思う。全体的にそのつながりが見えにくい表現になっている。

委員 (1)と(4)を「人と人がつながって市民が」としてはどうか。新しいものを生み出すのではなく、今あるもので福島らしさ、人と人がつながっている良さを表現できないか。福島が失いつつあるものを大切にしたいと感じている。

議長 「将来構想や基本方針の実現に向けて留意すべき事項」について、ご意見があればお願いします。

委員 他のところも含めてだが、「プライオリティ」や「マンパワー」などの普段使わないカタカナ言葉は日本語にするか、かっこで日本語を入れるなど工夫をしていただければと思う。

委員 (2)の「まちづくりを進める仕組みを設けるべき」というのは、Yu-Me(ゆめ)会議も含めて、他にも市民が参加してまちづくりを進める仕組みを設けるべきということか。

議長 若者が福島から流出している問題は、大学や行政だけで解決できるわけではなく、行政、大学、産業界、企業が一体として取り組まなければいけないと思う。そういうことも含めて、このような仕組みが必要であるということだと理解している。

議長 本日、多くのご意見をいただいた。意見書に反映できる部分は反映し、私の一任で修正内容を確認のうえ、有識者懇談会としての意見書をまとめたいと思う。

各委員 異議なし

(4) その他

- 事務局 ○意見書提出について説明。
- ・日時 令和2年1月24日(水) 午前10時～
 - ・会場 福島市役所 4階 市長応接室
 - ・対応者 伊藤宏会長、三宅祐子副会長
- 令和2年度の有識者懇談会について説明
- ・令和2年4月下旬の開催を予定。

(5) 閉会